

●三位一体後第一主日

泉のほとり

今月の詩編「第二十九編」

神の子らよ、主に帰せよ

栄光と力を主に帰せよ

御名の栄光を主に帰せよ。

聖なる輝きに満ちる主にひれ伏せ。



試練の原因は

「試練を耐え忍ぶ人は幸いです」と言ったヤコブ先生は「誘惑に遭う時、誰も『神に誘惑されている』と言つてはなりません」と話しました。「試練」という言葉は後半の「誘惑する」という言葉と、一つは名詞、一つは動詞の違いで、両者は同じ意味の言葉です。そして、「試み」という意味にも訳されるのです。人が受ける「試練」は「誘惑」や「試み」という意味合いを持つものであることを記憶したいのです。

ヤコブ先生は続けて「人はそれぞれ、自分自身の欲に引かれ、唆されて、誘惑に陥るのです」と、人の欲が試練や誘惑、試みを招くものだ教えます。更に「欲がはらんで罪を生み、罪が熟して死を生みます」と、「欲」がいかに恐ろしい結末をもたらすのかを警告しているのです。しかし、「欲」は目に見えないゆえに、人は警戒もせず、問題視しないのです。

十戒は「隣人の家を欲してはならない」と命じています。これを守るためには、必然的に人は自分の内面を見なければなりません。この戒めは、姦淫や盗みを行動に移してはいないゆえに、十戒を守っているとする人たちに、しかし、内側には依然として健在する自分の「欲」に目を向けさせ、人の偽善に気づかせる戒めでもあります。そして常に神のことばか、自分の欲か、自分がどちらを優先にしているか、その内面に向けさせる戒めです。当然、欲に引かれていれば、神も神の教えも見なくなる

ことが必然的に起きるのです。究極的にはこの十の戒めは、十戒のすべてを真に守るため、人の内側にある欲に目を向けさせるものです。神を恐れ、隣人の家を重んじること、愛することができない最も中心にある原因を人の欲であると教えています。この戒めを真に守ろうとする時、人の欲がいかに人の心を探え、人を盲目にし、神も隣人をも見なくさせ、人を闇の中、罪の中へと陥れるものだと気付かされるのです。

すべての試練や誘惑が「欲に引かれてあるかのように」と語っています。それは、実際に「自分の欲」ゆえにあることがほとんどという現実を表していると思います。私たちはこの教えに「自分は違う」と思わず、まず、私自身の欲が招いたものではないかと思えるのが知恵ではないかと思えます。それほど警戒しても足らないことはない。それほど気づかないところで、人は欲に唆され、動かされるのです。

前回、「知恵に欠けている人を神はお咎め立てしない」とありました。しかし、試練の中で自分の知恵のなさ、愚かさを見る人は少ないのです。むしろ人は試練の原因を自分の外に見出し、不平や嘆き、試練の原因を探して非難し、怒り、試練から神の知恵を聞くよりも、自分の正義を主張することが多く、自分を知恵ある者とする人が多いのです。

使徒たちは正しいことをなすゆえに受けた試練の中でも、神の前での自分に目を向けていました。自分の欠けたところ、知恵のなさ、不信仰に気付かされ、「神の力」を頼る信仰、その知恵を見つけ出していたことを覚えていたのです。人が高ぶっていても気づかず、人を嘲り、見下し、自分の義を主張し、人を裁き、欲に唆され、神も隣人も忘れていのに、試練もなければ困難もない。それが本当によいことなのかと思わされます。度重なる試練が与えられても、気づくほうが幸いです。欲に唆され生きる愚かさが取り除かれ、キリストにある知恵を得ることが幸いです。お咎め立てしない神は、その者を決して蔑まれません。

「様々な試練にあうとき、この上ない喜びと思いなさい。完全に欠けたところのない者となるためです。適格者と認められ、神を愛する人々に約束されたいのちの冠をいただくためです」と。愚かな者に、神はこのようなご自分にある知恵と祝福とを、人に注いで与えたい、その御心を示してくださいました。あらゆる時、自分の内側に目を向け、その御心に日々すがりついていきたい、そう願うものです。

2025年度

教会全体課題

聖書の御言葉に生きる。

わたしたちのヴィジョン

主イエスの愛の中で、

愛と交わりを通して

お互いに成長する教会

《今日のお知らせ》

○礼拝後、全体での集会はありません。

○主日予定表は次週配布の予定です。

《ぶどうの会より》

本日、ぶどうの会は第二・三シオンルームで行います。

《礼拝伝道委員会より》

次週、六月二十九日の主日礼拝後、ホールにて青年会が企画して下さった楽しい交わりの会があります。どなたでもお気軽にご参加いただけるレクリエーション企画です。

ぜひ皆さまお誘いあわせの上、ご参加ください。

《ルツの会より》

本日礼拝後、カナンルームでルツの会を行います。民数記三、四章を学びます。聖書、讃美歌をお持ちの上、ご参加ください。

《交読詩篇》

※会衆は太字の箇所を唱和します。

〔司・会〕の箇所は司式者と会衆が合わせて唱和します。

【詩篇二十九篇】賛歌。ダビデの詩。

神の子らよ、主に帰せよ

栄光と力を主に帰せよ

御名の栄光を主に帰せよ。

聖なる輝きに満ちる主にひれ伏せ。

主の御声は水の上に響く。

栄光の神の雷鳴はとどろく。

主は大水の上にいます。

主の御声は力をもって響く

主の御声は輝きをもって響く。

主の御声は杉の木を砕き

主はレバノンの杉の木を砕き

レバノンを子牛のように

シルヨンを野牛の子のように躍らせる。

〔司・会〕

主の御声は炎を裂いて走らせる。

主の御声は荒れ野をもたえさせ

主はカデシユの荒れ野をもたえさせる。

主の御声は雌鹿をもたえさせ

月満ちぬうちに子を産ませる。

神殿のものみなは唱える「栄光あれ」と。

主は洪水の上に御座をおく。

とこしえの王として、主は御座をおく。

〔司・会〕

どうか主が民に力をお与えになるように。

主が民を祝福して平和をお与えになるように。

《今日の子ども礼拝》

●子ども礼拝（午前9時20分・地下ホール）

説教 「悔い改めさせ、赦すために」

聖書 使徒5章27〜32節

説教者 吉村和雄名譽牧師

《次週の礼拝》

●子ども礼拝（午前9時20分・地下ホール）

説教 「天使のような顔つき」

聖書 使徒6章8〜15節

説教者 宮間彰広 兄

●主日礼拝（午前10時30分・礼拝堂）

讚美歌 69番 278番

説教 「話すのに遅く、怒るのに遅く」

聖書 ヤコブ1章16〜21節

説教者 黄允湜 牧師





主日礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 67番 16番
説教 「神がお住みになるのは」
聖書 使徒7章44～50節(新約 P.226)
司式 山下 純一 兄
聖餐司式 黄 允湜 牧師
説教者 宮間 彰広 兄

前奏曲 「いと高きにある神にのみ栄光あれ」 G.バーム

○讃美歌67番

- 1.よろずのものとわにしらす み父よ
いまめぐみを くだしたまえ
み名をほむる われらに
- 2.ひととなりし すくいのみ子 主イエスよ
利きつぎのみことばもて
しめたまえ まことを
- 3.いともつよき なぐさめぬし みたまよ
わがころを おさめたまえ
今よりのち はなれで
- 4.三つにまして ひとりにます みかみよ
み名のさかえ ほめたたえて
とこしなえに したがわん

アーメン

※礼拝のしおりと讃美歌をお持ちください。

○讃美歌16番

- 1.いとよきみかみよ われらをきよめわかち
おおまえに いくるに ふさわしきものとなし
もろとも大御名を たたえさせたまえかし
- 2.うるわしきうたもて ほめたたえまつるとも
かぎりなきめぐみを いかでのべつくすべき
ひらすらに 「アバ父」と よびまつるほかぞなき
- 3.召されたるわれらは みくにの世嗣なれば
いとたかきみむねを おのがころとなして
さかえある大御名を とこしえにほめまつらん
アーメン

聖餐曲 「アダージョ」

(オルガン交響曲第5番へ短調より) C.M.グイドーニ

後奏曲 「プレスト」 (協奏曲へ長調より) G.F.ヘンデル